



さわやか



授業力を身に付けると!!

初任研最後の研究授業が行われました。授業の流し方はもちろん、教材作成・提示、生徒指導の機能を生かすこと、興味・関心を引きつける小技等、そこには、授業研究を積み重ね、力を付けた姿、ねらいを達成した授業がありました。授業終わりの子ども達のあいさつの声は、大きく張りがありました。その姿を前に、戸田教諭は、教師となった幸せを感じたことと思います。



教員の長時間労働が問題になっています。その原因は、事務書類の作成・提出であったり、保護者への対応であったり、ノートの丸付けであったりする事が多く、それらが優先され教材研究の時間がとれない。すると、教師本来の主要な業務であるはずの授業力のレベルが落ちてしまい、学級がまとまらず自信をなくし、さらに多忙感が増すという悪循環に陥ってしまうこともあります。教師の本分が果たせなくなることが、長時間労働のおおきな問題です。



学校における働き方改革

文科省が示す学校での働き改革は、『教師の業務負担の軽減を図り、限られた時間の中で専門性を生かしつつ、授業改善のための時間や子どもと向き合う時間を確保し、自らの授業を磨くと共に、日々の生活や教職人生を豊かにし、人間性や創造性を高め、効果的な教育活動を持続的に行える状況を作り出す。』ということです。

教師の本分

子ども達一人一人に自立の力の元となる資質・能力を、「授業を通して」身に付けることが教師の本分です。教育公務員特例法には、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。(第21条(研修))」と記されており、教員として、職務から研修(授業研究を主とした研修)をなくすことはできません。働き方改革の中で示されているように、授業改善のための時間を確保し、自らの授業をブラッシュアップし、子どもを育てることが大切です。

さて、研究推進委員会の中で、公開する目的だとかその効果、公開することの困難さなどについて話し合われました。私は、なるほどと聞かせていただきました。

校内授業研究会を観に来ていただく!



今年度の研修の課題は、授業研究をこなすことに追われ、じっくり取り組むことができなかったことです。次年度は、限られた研修時間の中で、この反省を生かすことが課題です。研修時間が10から5に半減するのであれば、5の中で反省を生かした研修を行うことが大切です。

研究公開のメリットは、外部からの意見をいただく(改善の視点が広がる)ことで、質の高い研究になることです。それは、先生方一人一人の授業力の向上のみならず、市域全体の授業力向上に資するものとなります。

「校内授業研究会を、見に来ていただく意識で!」という言葉に、なるほどと思いました。公開のための授業研究会ではなく、校内授業研究会の日に合わせて観に来ていただき、ご意見をいただくと考えれば、通常の研修の意識で授業力を高めることができます。

授業を通して、子どもの生きる力を育てることが教師の本分です。授業改善のための時間や子どもと向き合う時間を確保し、自らの授業を磨き、日々の生活や教職人生を豊かなものにしていきたいものです。